

企業名：三和ホールディングス

レポート名：統合報告書 2023

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

三和ホールディングスは元々シャッターを製造する企業であった。近年の燃料価格高騰や、近年の地球温暖化や燃料価格高騰を受けた SDGs の推進、また DX の機運の高まりお受け、デジタルを導入した、サステナブルな製品を多種多様に提供するという方向にシフトしている。実際に、三和ホールディングスの企業理念ともいえる「三和グループが社会に対して果たすべき使命」は「安全、安心、快適を提供することにより社会に貢献します」となっているように、新長期、新中期経営計画は日本、アメリカ、ヨーロッパ、アジアというグローバルな範囲でサステナブルかつ多様な製品を提供しながら、安心、安全を提供する防災商品、快適性を支えるデジタル化の推進を将来の姿として謳っているとわかる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

これまで主戦力の商品としていたシャッターの製造技術を活かし、防火、防犯用だけでなく、防災用の製品を生産している。日本は災害大国と呼ばれるように、自然災害はほぼ毎年起こっている。三和ホールディングスの製品はこれらの災害にも対応できるよう、暴風や強い揺れにも耐えられる耐震性が備わったものとなっており、三和ホールディングスは今の日本の災害対策には欠かせない製品を提供しているともいえ、その点で競争優位性を持つ。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

防災は日本には今後も欠かせない課題であり、三和ホールディングスの競争優位性は今後も持続するものであると考えられる。しかし、防災は他企業も近年取り組んでいる課題であり、これから三和ホールディングスのように、自社の優位性を持つ主力商品を生かした防災に関する新製品を作り出すことは可能である。現段階では防災、環境対応商品の売り上げは上昇しているが、今後他社が主力商品を防災関連商品に移した場合、この優位性が維持できなくなる可能性がある。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

三和ホールディングスでは、経営者トップから従業員に対して経営戦略やビジョンの説明、コンプライアンスの重要性を繰り返し説明するなど、社員教育に力をいれている。このような戦略説明、意見交換を通じ、社員自らが会社組織の一員であることを自覚し、経営に携わっている、というような感覚を養うことができる。単に業種の知識を得るだけでなく、自分の業務が経営に影響しているということへの責任感も身に付けられ、社会人としての素養

を身に付けられる。このようにして、自信の人的資本の価値向上を達成できる。ただ、女性である私自身からすると、業種柄、女性従業員比率、管理職比率は低くなっており、女性目線の意見を発揮し、採用するというプロセスが適切に踏まれているかどうか不透明であり、その点については価値向上を見込めないように感じる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

三和ホールディングスの新長期、新中期経営計画に基づき、具体的な事業展開の範囲、SDGsのどの目標に対するアプローチかまた小目標ともいえる ESG マテリアリティの内容の明記など、三和ホールディングスが目指す目標が明示されている点は評価できる。しかし、自社の強みは大きく強調されているが、競合他社と競り合ったときにいかせる強みや、他社につかれて崩れてしまうような弱みを、強みにどう変えるか、またどうカバーするかが明示されていないため、今後ますます競合が増えるであろう防災という分野において、どのように強みだけでなく弱みを生かすかを書くべきである。例えば、環境分野での事業例にかかっている「今後の課題」はエコカー切り替えが進んでいないことを表しているが、実際にどの程度のレベルまで（来年度までに〇台導入するといった数値も含む）この課題をクリアしていくのかは丁寧に書いておくべきである。